

2010.SEP

## 釣り人が創る逸品釣具 ぎあ・らぼ

お気楽Gear-labニューズレター第22号です。

Gear-Lab製品をご利用ありがとうございます。

先月のニューズレターで常夏宣言しましたが、いやはやなんともまだまだ猛暑は続きそうな雰囲気です。こうなるとなんだか笑ってしまいそうなクレイジーな気候ですね。

私の仕事も釣り場で釣具のテストしたり、撮影したりです。ますます今年は真っ黒になって常夏を過ごしております。

一昨日の撮影では熱い防波堤に、はいつくばって撮影してましたところ目の前の防波堤の陽炎にクラクラきながらガマンして汗だくで撮影していると先にダウンしてしまったのはカメラの方でした。(～～;) あわてて冷やしてやると生き返ったのでホッと安心しました。

さて、暑さといえば45度の暑さを体験した今年のラスベガスのフィッシングショーですが、性懲りもなく来年も出展します。申し込みも済んで、来年は新たな商品でどう世界中のバイヤーにアピールしようかと毎日変なことをたくさんくらんでいます。昨夜はそのことで頭がヒートして一睡もできず、ついに夜中に読書を開始して87歳の近藤藤太が書いた「デカイ態度で渡り合え！」です。ますます気持ちが盛り上がってしまい、今は昼下がりの暑い外をボ～っと眺めながら、そこはかとなく、つれづれなるままにこのニューズレターを書いております。(^^)



## 旅暮らし四方山話。(その11)

いまさら申し上げることもありませんが、私は旅が大好きです。また私にとって旅のない人生は考えられません。

これからも旅を続けて参ります。亭主元気で留守がいい！という応援メッセージに今後も応えていくつもりでございます。

(～～;)

私の好きな歴史上の人たちは全て旅をたくさんしています。宮本武蔵、土方歳三、坂本龍馬、勝海舟、乃木希典、秋山好古などはみんなそうです。坂本龍馬は勝海舟に会ってから活動開始して暗殺されるまでのたった5年間で地球一周分くらいを船と徒歩で渡り歩いています。

幕末の時代は一般人で一日3万歩が平均だったそうですが、そうになると一日最低

20 kmは移動していたことになり。既に毎日が旅なんです。

さて今回のお話は「アイデア」です。私が旅にでているときにいつも考えているテーマがあります。それはやっぱりGear-Labの商品作りなのですが、これは私にとって旅の楽しみなのです。釣具作りがテーマで旅をすると、それだけで旅が楽しいものになります。旅はいろんな感性を触発してくれますし、神様がくれたのではないかと思うほど色々なモノや事に出会います。そのアイデアを出したり頂いたりするときに一番大事にしていることは「一人のお客様が喜んでいただける釣具」ということなのです。会社勤めしていたときは、会議で「どれくらい売れるんだ？」という責めにあい、そのときに正攻法で回答してしまうと、「一人のお客様が喜ぶ」というイメージがなくなり「たくさんのお客さんが喜ぶ」という、味も素っ気もない、まあまあ答えとなって会議が終わってしまいます。そのとき私はゲップとアクビが止まらなくなり眠気さえ襲われるのです。そんなアイデアは必ず失敗します。

本当に大切なのは「一人のお客様」の後ろに100人のお客様が隠れている

Gear-labは普通の釣具店にはない新しく夢のある逸品釣具を紹介し続けます。全国の熱い人たちと共に本当に良いものを世の中に出すことに真剣であり常識にとられない商品開発や逸品釣具を求める方とのみチームを組んでいきます。

**BE A GOOD FIGHTER!**  
THE WHOLE WORLD WILL RESPECT YOU, AND FALL IN LOVE WITH YOU.  
近藤藤太  
*Yasu K. Kondo*

勝つためのコミュニケーション

**デカイ態度で渡り合え!**

世界中で通用する人間関係10のルール

87歳現役国際トラブルシューターが教える!

**世界で通用するコミュニケーションのとり方**

どんな交渉もこれさえあればOK!

フォレスト出版 定価 本体1500円+税

んです。逆に一歩進んで「誰に喜んでもらえるか？」というテーマになればアイデアは次から次から溢れてきます。

アイデアとはまるでプレゼントのようなものです。Aさんはとても喜ぶけどBさんはあまり喜ばないというプレゼントが一番良いのです。これはAさんだったら喜んでくれるなということを考えられるというのはそれだけで大きなアイデアなのです。一般に誰でも喜ぶモノって、実は誰も喜ばないモノなのです。アイデアを出すのに行き詰まる人は、(右上につづく)



いったん「誰に」というところに立ち戻って考えてみるということが大事なんですね。

次にその人の困っていることは何？というテーマで考えればまたアイデアはできます。それはまるで気の利いたプレゼントですね。「え？私なんでこれが欲しいってわかったの？」ということになればプレゼントは大成功です。実は釣具だって同じです。「こんなのが防波堤で前から欲しかったんだよな〜。」とお客様に言われることがあります。こんなアイデアは私にとっては大成功の釣具です。

アイデアがでてくる扉は、閉じないことが大事ですが、におい、手触り、味などという「感じる」という感覚がとても重要な意味合いをもちます。アイデアの扉は感じると開きますが考えると閉じてしまいます。先に考えずに感じる事が重要なことだと思います。

真面目で学生時代に成績の良かった人はまず考えてしまう人が多いようです。理由は正解は何か？ということではなく気持ちいいことは何か？ということだからです。

何が気持ちいい？という質問は学校の授業にはできませんでした。勿論これは暗記力などは関係ありません。感じる事です。先に感じてから後から考えるということです。人が困っていること、人が気持ちいいこと、そのことを感じるということがアイデアの扉を開く一番大切なことだと思います。

みんなでアイデアを考えると、「それはどうかな？」と人のアイデアを潰してしまう人がいます。そんな上司がいると辛い仕事場になります。自分のアイデアは嬉しいけど、他人のアイデアはつまらないという感覚です。けなされると誰だってアイデアはトタンに出なくなります。「つまらなくていいね〜！」と言われるとまたアイデアが出てきます。

### ちょい投げオモリ益々気合い入ってます。

ちょい投げ用の画期的なオモリの開発は既に3カ月目に入りました。今回は釣り業界に全く関係ないプラスチック成型工場と一緒に開発をしていますが、釣具に鉛を使うという点で「とんでもない業界だ！」と最初は言われました。私もそう思いますが、あの比重でこのコストでは代替品がないのが現状であるということに納得していただくのに一ヶ月の時間を費やしてしまいました。福岡と神奈川で、やっとここにきて議論がヒートアップしてきました。( ^。^ )

### ウキを使った波止PUFFで爆釣！

漁師が30年間愛してやまない通称「おっぱい針」を使って波止PUFFなるものを2カ月前にリリースしましたが、ここにきて面白い使い方でおオモリを爆釣しているお客様の情報があります。波止PUFF2個をつなぎ、その2個の波止PUFFでゆっくり沈むというくらいの遊動ウキをつけてやるのです。たとえば水深6mあるところで水深3~5mのタナにイカがいるとします。ウキ下を3mにして、ウキ止めのところにウキがきたらウキがゆっくり沈みます。10秒で1mくらいだとするとウキが沈み始めて20カウントまでが狙い目です。通常通りにシャクリを入れて釣る釣り方です。

自分のアイデアの扉を開くためには絶対に人のアイデアをけなさないということが重要です。他人の意見はボツにしてはいけないのです。どんなにくだらないアイデアを言おうがそれを面白がっていくと自分からもアイデアがでようになります。これは不思議です。自分のアイデアの扉からアイデアが湧いてくる、アイデアのアイドリングをいつもかけておくということでしょう。他人のアイデアを面白がっていくとアイデアの泉が湧きあがるのを感じます。その人もアイデアが出てくるし自分もアイデアが湧いてきます。

一人でアイデアを出すときも自分自身を「おっ！なかなかやるやん！おもしろい！」と自分を面白がるとつつい調子にのって次のアイデアがでてきます。

ほめる。  
調子に乗る。  
のぼせあがる。  
と...  
アイデアが湧いてくる!

### 株式会社ギアラボ

〒813-0016 福岡市東区香椎浜2丁目5-2-701

Tel 092 - 663 - 5196

Fax 092 - 663 - 5102

Mail NQE50210@nifty . Com

このお気楽ニューズレターのバックナンバーは下記にございます。

<http://www.gear-lab.com/newsletter/main.htm>

### Gear-labホームページ

<http://www.gear-lab.com>

毎月の新製品に追われ、全国を旅しながら、モノづくりと販売のお手伝いをしています。

お気軽にメールください。面白い釣具があれば全国どこへでも参上します！一杯呑みましょう。(〜。〜)

福山克義(ふくやまかつよし)

メール NQE50210@nifty.com

携帯 090-8406-9591



お気楽DEATCHこと福山でした